

病理部門

内視鏡で採取された組織はどこへ？ ～病理診断までのながれ～

- 内視鏡検査等で採取された患者さんの組織は、ホルマリン入りの容器に入れられてここ病理検査室に運ばれます。
- この組織から約3マイクロメートル（3/1000ミリメートル）という極薄に切られたものを染色し、病理医が顕微鏡で鏡検し診断しています。



すごい薄さだ
ワン



受付



提出される組織に
取り違いなどが無い
か、
一個一個確実に
チェックします。

薄切 (はくせつ)



冷えたブロックを、
特殊な機械で約3/1000ミリの
厚さに切り、
ガラス板に貼りつけます。

前処理



小さな組織を慎重に取り出し、
ホルマリンを洗い流したあと、
装置の中で
一晩かけて組織から水分を抜き
パラフィンに置換します。

染色



組織は
そのままでは色がないため
染色を施します。
機械で染めたり、
手作業で染めたりします。

包埋 (ほうまい)



パラフィンに埋めた組織を
約-5℃で冷やします。

チェック



出来上がったプレパラート標本に
間違いがないか、
正しく染色されたかなどを
最終チェックします。

パラフィンって「ろうそく」の
ロウと同じだよ!!

病理医による鏡検・診断

標本が完成すると病理医に提出され、病理診断が行われます。

